

みんな知らない

「役所からもらえる 凄い大金」リスト30

あなたの自治体にも あるかも

エアコンに補助金が出る

「制度を確認し、手続きさえすれば受けることができる補助金取のおカネはたくさんあるのに、申請する人少ない。国や自治体から「こういう制度があるのでぜひ利用してください」と言ってくることはないため、定期的な情報収集が必要で

現在も続く「値上げラッシュ」はしばらく止みそうになく、生活は苦しくなる一方だ。こんな時こそ、普般税金を払っている役所からおカネを取り返すことを考えたい。中には「凄い大金」がもらえる制度もある。

そこで今回、本誌がおすすめする制度を表(60頁61ページ)にまとめた。酷暑が予想される今年の夏を乗り切るため、まず注目したいのがエアコン購入費用の補助制度だ。

まで、この事業に登録している業者と契約しなければ対象になつてしまふ。工事を依頼する前に、制度を利用できるか確認しよう。

リフォームに関する補助金を併用できることもある。

「外壁塗装は地元の自治体の制度を利用し、風呂場は全国対象の補助金を利用するなど、区画と見積もりを分けて申請を行えば、それぞれ補助金を受け取ることができる」

職場等で健康診断ができない人は、人間ドックの費用助成の制度を利用するのがおすすめだ。「通常は健康保険組合が補助する場合が多い。しかし、会社を退職した人

情報サイト「助成金なう」の前田啓佑氏はこう話す。

「省エネルギー性能の高い新品のエアコンを買う場合、多くの自治体で補助金が出ます。例えば埼玉県川越市の制度では、本体価格と設置費用の3分の2、最大で8万円が補助されます」

省エネのエアコンでなくとも、数万円が支給されることもある。滋賀県浜市などいくつかの自治体では、熱中症対策のため、自宅にエアコンがないか、壊れていて使えない65歳以上の方へ非課税世帯を対象に購入・修理費用を負担し、上限は5

生活品が値上がりを続け、暮らしへの不安は募るばかり。家族の介護など急な出費が加われば、家計はどんどん苦しくなる。そんな時は、いつも税金を払っている役所から買っておカネを取り返そう。

万円ほどです」(前田氏)

60歳を過ぎ、介護負担の軽減や転倒予防のため自宅をリフォームしたい時は、住宅改修予防給付を利用しよう。手すりなどの取り付けや段差の解消など、老後に安全に過ごすために必要な工事費用の最大9割、上限18万円ほどを受け取れる。

リフォームに関する制度は、これだけではない。こどもみらい住宅支援事業にも注目だ。断熱改修やバリアフリー改修などの条件を満たしたリフォームに対し、最大45万円が支給される。制度名だけ見ると子育て世帯対象のように思えるが、リフォームの場合は全世代が利用できる。申請期限は23年3月末

や専業主婦など、国民健康保険に加入している人でも、自治体の助成金を受け取ることができる。地域によって金額は様々ですが、数千〜2万円ほどが相場です(「ファイナンスチャプランナーの井戸美枝氏」)

タダで家がもらえる?!

歩行に不安がある人には、シルバーカー購入費用助成がある。購入費の3分の2、上限2万円が支給されるケースが多い。医療機器や家電などに補助が出る場合は、自治体指定の販売業者や機種があることも多いため、購入前に確認しておくこと

にも、補助金が出る。医師から「中等度以上の難聴」と診断を受けた人や、年齢を重ねて耳が遠くなってきた人は、補聴器購入費用補助が使えらる。こちらも自治体によって支給額が異なるが、最大で5万円ほどを受け取ることができる。

安心だ。

都会の生活に疲れ、住環境を変えたい人は、地方都市が実施する移住支援金の制度を利用し、引っ越してみるのがいいだろう。山口県は、首都圏からの移住者に、なんと最大で100万円を支給している。ほかにも、移

最高100万円! 使わなきゃ大損!